

## 第3章 産業の活力が増し、にぎわいと交流が生まれるまち

### (1) 大地と海からの恵みとして、おいしく安全な食料を供給し続けるとともに、魅力的な農業と漁業のあるまちをめざします

#### ① 農業の振興

##### 基本的方向

食生活の変化により、これまで国内自給率が高かった米の消費が減り続ける一方、畜産物などの輸入食料の消費が増えてきたことなどから食料自給率が低下してきており、国においてはその回復に取り組んでいます。

＊都市型農業が営まれる泉南市においても、1990年（平成2年）と2005年（平成17年）を比較すると、経営耕地面積は29%減少し、販売農家戸数では39%の減少となっています。また、遊休農地の増加などの問題も深刻化しつつあります。

農地は食料の安定供給にとって不可欠なものであると同時に、農業生産がおこなわれることで保水や土壌浸食の防止などの多面的機能が発揮されていることから、その保全是地域全体にとって重要です。

泉南市においては、これまでほ場・農道・水路・ため池などの農業基盤整備を進めてきました。農地や農家戸数が減少してきたことの背景として、農業従事者の高齢化が進んできたことや、これを補う新たな担い手が不足しているという問題があります。

これらの解決のため、農業施策の展開を進めるとともに、優良農地の保全および遊休農地の拡大抑制などに取り組みます。

##### 施策

#### 1) 農業基盤の整備

農業生産を支える農業用の道路、農業用水および農地の整備などを進め、生産性の向上を図ります。

#### 2) 農地の保全と活用

地域の意欲ある農業者に農地の利用集積を促進し、生産性の向上と遊休農地の解消

を図ります。

### 3) 農作物のブランド化

水なすに代表される泉州地域の特産農作物のブランド化を進め、全国的に通用する特産物として育成します。

### 4) 担い手の確保・育成

営農を支える農業基盤の整備などに加え、就農希望者の受け入れ策などの施策を検討し、農業の魅力を高めその可能性を広げて、担い手の確保に取り組みます。

### 5) 都市農地の保全

緑やオープンスペースとしての機能を担う生産緑地等の適正な管理を通じて、都市農地の保全を図ります。

## ② 漁業の振興

### 基本的方向

大都市近郊という立地条件を活かして、泉南市の水産業は大阪府有数の魚介類の供給地として重要な役割を果たしており、主要な地場産業として発展してきました。しかしながら、近年の漁業従事者数は横ばいであり、また漁獲量についても2006年（平成18年）～2008年（平成20年）の3年間の平均総漁獲量を1996年（平成8年）～1998年（平成10年）の平均と比べると408トンから307トンへと、25%も減少しています。

今後は大阪湾の漁業生産力を有効に活用した生産性の高い\*都市型漁業を促進し、担い手の育成を支援していきます。

### 施策

#### 1) 漁業振興の促進

漁業協同組合など関係団体との連携を強化するとともに、育てる漁場づくりや地産地消を推進します。

#### 2) 観光・交流の場としての充実促進

大都市近郊という立地を活かした観光漁業などの\*都市型漁業を促進するとともに、新鮮な地場水産物の直販などによって魚食文化の普及を図ります。

#### 3) 担い手の確保・育成

漁場の充実に努めるとともに、観光・交流の場としての機能充実などを進め、担い手の確保・育成を図ります。